

教職課程センターだより 第5号

発行日 2010年11月15日

教育条件整備と教師としての専門学力の向上を

教職課程センター長 磯部 作

地球温暖化に伴う猛暑もやっと終わり、秋を感じられるようになってきましたが、知多半島周辺の海ではまだ水温が高く、特産の海苔養殖の準備などにも影響が出ていました。日本の教育予算はGDP比ではOECD諸国のなかで最低となっており、今後この影響が心配され、教育予算の増額が急務となっています。

本学では、子ども発達学部が設立3年目に入り、特別支援教育科目などの教職過程の履修者が増加しており、教職課程センター室も手狭になってきました。また、就職超氷河期と言われる現在の社会情勢の中で教員採用試験の志願倍率が上がり、ここ数年は約10名に達していた教員採用試験の現役合格者は、2000年頃の状況よりは良いものの、今年度は愛知県の2名です。卒業生を含めても5名となっています。

このため、教職課程センター室などの教育条件の整備とともに、教師としての専門の力、とりわけ、状況を科学的に把握する教科内容を中心とした学力のさらなる向上が必要となっています。もちろん、人々の生活を守り、就職超氷河期といわれる社会状況を改革し、少人数学級などの教育条件整備を図り、憲法に保障された働く権利を、行政や企業などに保障させていくことが重要ですが。

教職課程センターでは、これまでも自主ゼミである教友ゼミなど、教師としての専門の力の向上に対して様々の取り組みをしてきました。今後は、教職課程の学生の皆さんの努力と我々教職員の支援とともに、教科内容を中心とした専門学力の向上を目指して、1998年の教養審答申で減少した教科内容科目の時間数の増加や、教科関連科目の履修保障なども考えていかなければならないと思います。

とはいえ、ここ数年の教員採用試験合格者の増加によって、数十名以上の卒業生が、名古屋市や愛知県をはじめ、全国各地で教員として働いています。このため、これらの卒業生同士の教育研究の交流を図るとともに、教職希望の学生が、教師になっている先輩から、教師としての専門の学力など、多くのことを学ぶことも可能になっています。そこで今年度は2011年の1月29日（土）に、美浜キャンパスで「教育実践交流会」の開催を計画しております。多くの卒業生、学生の皆さんの参加をお願い致します。



精一杯の努力をした実習

社会福祉学部社会福祉学科 4年 堀 恭子

私はこの実習で、生徒たちから多くを教えてもらいました。その中の印象に残った出来事で、ある日の放課後、こんなことがありました。教室で何人かの生徒と話をしているとき、話の中で私が「じゃあ、良い先生ってどんな先生？」という質問をしました。するとある生徒は、「自分を見てくれる先生。」と答えました。普段の姿からは想像のつかないその生徒の答えに、私はとても驚き、また、生徒は本当によく先生を見ていると気付かされました。生徒一人一人によって違いますが、おそらくどんな生徒も、学校へ来ると嫌な事や悩みもあるだろうと思います。そのときに、少しでもそんな自分を見てくれていて、認めてくれる先生という存在があったら、どれほど安心できるでしょうか。最終日、その生徒からもらった手紙の中には、「先生には、生徒のことをよく見ることができる先生になってほしい。先生は、3週間でみんなが大好きな先生になったのだから、きっと良い先生になると思う。」と書かれていました。私は、頼りなくて、つまらない授業しかできなくて、こんな実習生でごめんね。といつも思っていました。しかし、3週間だったからこそ全力投球できたということもありますが、自分が精一杯努力し、伝えようとしたことは、何かの形で生徒に伝わるのだと感じました。

これから実習をする方々へ・・・私はみなさんに何かアドバイスできるような立場ではありませんし、人から聞いたことは忘れてしまうことが多いです。しかし、自分で考え悩み行動したことは決して忘れません。不安もあると思いますが、やれるだけのことをやったら、あとは生徒を信頼してください。きっと実りある実習になると思います。



黒釜千知さんの授業風景



実習を通して

社会福祉学部社会福祉学科 4年 太田 翔

実習が始まり、三日目のST（帰りの会）の時、私は生涯忘れられない経験をした。その日、私は初めての授業を行い、それが思うようにうまくいかず、1時間近く教科担任の先生に厳しい指導を受け、気分が沈んでいた。「これから受験を迎える中学三年生の授業を自分がやっていけるのだろうか。」など、いろいろな不安で胸がいっぱいでなり、沈んだ表情のまま、一人でやることを任せたSTを行っていた。先生の話の時、生徒の前で不安な気持ちに潰されそうな自分をさらけ出すように「先生、失敗しちゃったよ。これからはたぶんすると思う。でも、精一杯努力をするから、暖かい目で見守って下さい。」と言ってしまった。「しまった。」と思った。まだ来て三日目の教育実習生に弱音を吐かれても生徒は困るだろうし、頼りない人だと冷笑させるかもしれないと思った瞬間、クラス全員から拍手が起こった。まだ名前を覚えていなく、話したこともない生徒もいたのに私に応援の拍手をくれたのだ。今まで感じたことのない感動と嬉しさが体の中から出てくるのがわかり、三日目にして泣きそうになった。

その時、私の教育実習に対する姿勢と気持ちに変化が生まれた。自分の授業技術を磨き、経験を増やすことを実習の第一の目的に置かず、「生徒のために、教科担任の先生に負けない授業をしよう」という気持ちが念頭に出るようになった。そうすると自分でも不思議なくらいやる気と力が出た。毎日二時間しか寝てなくても授業での生徒の「なるほど。」と言う顔が見ることができたり、「先生成長したね。」と言われると体のだるさも眠気も飛んでいった。私は今まで個人競技に取り組むことが多く、「自分のため」だけに努力することが多かった。その私にとって、自分のため以上に「誰かのため」に頑張れたのは初めての経験だった。そして、三週間の実習が終わって、授業時間を見てみると最初6時間だった予定が33時間行っていた、「誰かのため」に尽くす時、自分の中に限界という言葉はおそらく現れないだろうと思った。

教師になる為に、そしてなれてからも私は多くの苦勞をし、心が折られそうになる時も来るだろう。しかし、今回実習で自分の中の限界を超えることができた、「生徒のため」ならばどんな苦境も超え、成長することができる、そんな自信が持てる実習になった。社会科の専門性や経験なさから不安や劣等感を味わうことが多かったけれど、「生徒の献身者」としての自分の無限の可能性を感じることができた、これからの自分に期待したいと思う。



特別支援学校の教育実習を終えて



社会福祉学部社会福祉学科 4年 岩田 信矢

私は大学2年生の時から養護学校の教員になりたいと思っていたので、養護学校への実習をとっても楽しみにしていました。しかし事前訪問の時に、高等部に配属されると聞いて正直生徒とどう接すればいいのか分からず、とても心配だった。大学では、障がい児と接する機会はあったにしろ、全て小学部の児童と接したことしかなく、高等部の生徒とどのような会話などをすればいいのか見当もつかなかった。実習の当日まで心配だったが、朝生徒の待つ教室に着く前に生徒から「新しい先生だ」などと声をかけられ、生徒や先生方が温かく迎えてくださり、心配は無くなっていた。

また、実習に行ってさまざまなことを見て学んだ。高等部や中等部には「作業学習」という授業があることは知っていたが、教師の生徒への働きかけや、生徒の活動などあまり知らなかった。作業学習では国語や数学などの教科とは違い、生徒が作業所や企業に就職してからの仕事を続ける根気強さや集中力をつけさせていた。私の指導教官の先生が「作業学習」は教師側も自分の専門の教科と全く違うことを行うため、高等部に配属されてから1から覚えることだらけだったと話してくれた。

実習の中で私が一番に大切にしたいことは、生徒は学校にいる大人はたとえ教育実習生であっても「先生」と認識するので生徒の前に出て恥ずかしくないような行動を取ること。また、生徒を真正面からとらえ一人一人真剣に向き合い、生徒の話をよく聞き、自分から生徒に話しかけて行くことを心がけた。

2週間という短い間だったが、養護学校で生徒や教師から大学で学べないことをたくさん学んだ。この学んだことを今後の学生生活や就職してから活かしていきたいと思う。



教育実習中の岩田君



今年の教員採用試験に思う

教職課程副センター長 大和田 孝士

最近「就活」とか「婚活」などという言葉をよく耳にする。就職難、これは理解できるが、さらに、ひょっとすると結婚難の時代なのかと思う。

今、大学卒業の若者を取り巻く社会情勢は実に厳しいものがある。教員採用試験も然りで、合格するのが難しくなっている。今年の現役合格者は愛知県に合格したわずか2名である。ここ1、2年前の卒業生を含めても合計4名（いずれも愛知県）である。

このような結果に対し、よく分かっていることではあるがあえて、自省も込めて、思いつくままに考えられることを列挙したいと思う。

採用試験—1次試験対策

大学の正しい姿であるとは思わないが、教職課程センターとして、教員採用試験の受験希望者に「一般教養」「教職教養」への対策はどうするか。

面接練習、あるいは模擬授業以前に、しっかり実力をつけておく必要があると思われる。当然のことながら、「一般教養」「教職教養」はどこでも1次試験で実施され、突破しないことには2次試験が受験できないからである。

受験資格・受験枠

本学において取得できる免許状が主に「中・社」「高・公民」と「特別支援」であることから、特別支援学校の枠で受験しようとする、愛知県などでは中学校か高等学校で受験、教科は「社会」か「公民」ということになり、殆どの大学で取得できる免許状であるため競合が起きてしまう。現状では、愛知県・名古屋市をはじめ殆どの自治体で特別支援の免許がなくても受験できるから余計である。

自治体主催の教師養成塾の開講

初任者の本採用前の辞退を減らそうと、即戦力養成をうたい文句に自治体（教育委員会）が開講している教師塾がある。内容は学級経営や授業の仕方、保護者対応、学校現場での実地研修等々、教師として、教師になったら必要不可欠な重要事項に関する講義のようである。これは開講自治体の教員採用と密接に関連しているように思われる。塾の卒業生は教員採用試験の1次試験が免除の自治体があったり、入塾の段階で面接や論文、大学の推薦などの選考があったりするところもある。名古屋市にも「なごや教師養成塾」がある。

常勤講師期間3年以上で1次試験免除

愛知県などでは、常勤期間3年以上で、現任校の校長推薦もしてもらい、1次試験免除で受験ができる。想像ではあるが、愛知県ではこの数がかなり多いと思われる。

補欠合格者の1次試験免除

従来一定期間内には大半の人たちが合格していた補欠合格者が、その年度内に採用されなくなり、その上、他の企業等へ進路変更することなく、次年度1次試験免除で受験している場合が多いのではないかと。

以上、現状をどう捉えたらいいか、多少の戸惑いもあり断定はできないが、合格者減少の原因を考えてみた。これから教員採用試験を受験する諸君の参考となれば幸いである。

★ 教員採用試験合格者から後輩へのメッセージ ★

社会福祉学部社会福祉学科 4年 原 司紗

教員採用試験の勉強法ですが、特別なことをするのではなく日々の積み重ねが大切であると感じます。始めに、先輩や友達に支持されている自分に合った参考書を探してみてください。私はそれらの参考書をもとに最低でも5回以上問題を解きました。

また、受験する都道府県の傾向をつかむことが大切です。愛知県は、幅広く浅く問題が出題されます。そのため、基礎問題や学習指導要領などの点数が取れる問題を確実に解答することが求められます。過去問はもちろんのこと、図書館にある教職課程という雑誌などの練習問題を沢山解きました。そして、実力を確認するため模試を受けました。数回受けてみて自分の苦手な部分を把握し、弱点を補強してみてください。

面接の対策は自主的に教職の仲間面接練習を行いました。技術的な面を磨くという意味でも有効ですが、皆の意見を聞き、自分の意見を発表する中で、考えが整理され目指す教師像や教育観が明確になったことが大きな成果のように思います。それらの考えを面接ノートに書き出しました。外部の面接練習ではT-PALというサイトで掲示されている勉強会に参加しました。この勉強会には講師など様々な立場の方が参加されているので視野が広がりお勧めです。

一次試験が合格するとすぐに二次試験があるので始めから二次を意識した勉強をしました。例えば、ただ暗記するのではなく、語句を漢字で正確に書けるようにしたり、歴史の出来事を説明できるようにしたりします。記述問題は始めからスラスラと解けません。しかし、すぐに答えを見ないようにしました。最初は何も見ずに問題から連想する語句を書き出し、次に参考書を見ながら自分なりに文章を作ります。最後に解答と照らし合わせて訂正します。私はこの作業で記述力がついたように感じます。

最後に勉強はメリハリをつけ短時間に合理的に行うと良いと思います。私は、勉強は図書館にいる間に、帰宅後は行いませんでした。遊びや息抜きの時間も取って継続できるようにしてください。教員採用試験は大変なことも多いですが、自分の信念を貫き頑張ってください。

社会福祉学部社会福祉学科 4年 伊藤 亜沙香

私が本格的に教育採用試験の勉強を始めたのは今年の3月に入ってからでした。それまでは、周りの友人が勉強をしている姿を見て焦りを感じつつも、弱い自分に負けてしまい勉強になかなか取りかかることができずにいました。そして、本当に遅いのですが…試験まで残り数カ月になり、ようやくこのままでは教師になれないという現実気付き、「私は教師になりたいのだから勉強するしかない！」と覚悟を決めて勉強を始めました。その後も何度もくじけそうになりましたが、教師になりたいという気持ちが支えとなり続けることができたように思います。まずは、教師になるという強い思いを持ち、覚悟を決めることが大切なのではないかなと思います。

試験勉強は期間が短かったため、十分にできたとはとても言えません。限られた時間の中で効率的に勉強できるよう、過去問を分析し、計画して、重要度の高い部分から自分なりに工夫をして勉強を進めていきました。面接や小論文では、ゼミでの活動や大学の講義、ボランティア活動、教育実習など今までの自分の経験がとても役に立ちました。どんな経験も必ず皆さんの糧になると思います。一つ一つの経験を大切に、様々なことを感じ学び取りながら、人としての幅を広げることも大切にしてってください。

そして、私が教員採用試験合格を目指す上で最も大切だと思うのは、周りの人々の存在です。私は試験勉強中、様々な人に支えてもらいました。自分の時間を割いて親身になって合格するためのアドバイスや対策をしてくださった先輩、先生方、試験勉強への愚痴を黙って聞き、応援してくれた両親、そして、なにより共に悩み、励ましあうことのできる友達の存在があったからこそ頑張ることができたと思っています。本当に感謝しています。

試験期間は本当に辛いとは思いますが、周りの人々に頼り、支えてもらいつつ、教師になるという強い思いを持って、決してあせらず、自分のペースで、自分と向き合い、自分を磨きながら頑張ってください。



教友ゼミ 奈良フィールドワークに参加して

子ども発達学部 子ども発達学科
2年 立松 尚恵

奈良へ行くのは小学校の修学旅行以来でした。小学校の時の記憶なので、奈良と京都の記憶が混ざってどっちに何があったかも忘れてしまい、マックが茶色だったことくらいしか覚えていませんでした。バスの中で、いろいろなお寺や像の紹介があり、五重塔や釈迦三尊像など、歴史の教科書に載っているものばかりでわくわくしました。奈良に着いてからは、バスの中で紹介してもらったものがたくさんあって感動の連続でした。



1000年以上も前に造られたものが今も大切に保管されていて、人間のつながりというのはとても不思議なものだと感じました。唐招提寺では、鑑真の像が見られなかったことがとても残念でした。

法隆寺では、玉虫の厨子や聖徳太子が幼かったころから大人になるまでの像があり、高校までの歴史の授業で習ったことをもっと深く、リアルに知ることができました。ひとつひとつの像の表情や姿がすべて違い、それぞれどんな気持ちを込められて造られたのだろうと思いました。

東大寺では、でっかい奈良の大仏を見ることができました。こんな大きいものを造るのは現代でも相当な技術と労力が必要だと思われるのに、昔の人は何かひとつのことを協力して成し遂げるということにおいて、「できる・できない」ではなく、「みんなでやろう」という気持ちが現代の人よりも大きかったのではないかと思います。この協力するという考えは、現代にも受け継がれるべきことだと思います。

今回のフィールドワークは、一日盛りだくさんでとても楽しかったです。次回のフィールドワークは初等が企画なので、今回の事を活かしながらもっと良いフィールドワークにできるようにしたいです。



唐招提寺の前で



薬師寺にて



充実した教員生活

三重県立伊賀白鳳高等学校教諭 林田 茉裕
(2008年3月社会福祉学部社会福祉学科卒業)

私は、高等学校で福祉の教員をして3年目になります。教科研究や校務分掌の仕事、教材研究をして授業を実践すること、部活動や放課後などで生徒と関わること、そして生徒の成長を見ることが楽しく毎日がとても充実していて「教員の道を選んで本当によかったな」と日々実感しています。

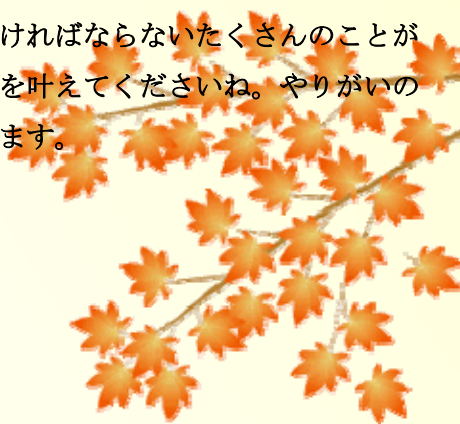
教員の仕事内容は授業以外にもたくさんあるので、なかなか仕事が計画通りに進まず連日夜遅くまで学校で仕事をするすることがあり、精神的にとっても辛い時期もありましたが、翌朝、生徒の笑顔を見ると疲れが不思議とどこかへ飛んで行き、「よし、今日も生徒のために元気に頑張ろう」と思えます。

私が大切にしていることは、「常に生徒の目線で考える」ということです。授業はもちろんですが、これは、学校行事や部活動指導、生徒指導、日常の生徒への声かけなどに対しても言えることだと私は思います。学校という場での仕事、つまり教育活動はすべてが生徒に直結し、生徒の成長や人格形成に繋がります。このことを私は今までの教員生活で実感してきました。

教員を目指している皆さんに伝えたいことは、2つあります。1つ目は「たくさんの人と出会う」ということです。学生時代にたくさんの人と出会い、さまざまな価値観や考え方を知り、その人を理解することの難しさと大切さを経験してください。これは生徒理解につながると思っています。同年代の人だけでなく老若男女さまざまな年齢層の人と出会ってください。

2つ目は「自分の経験値をあげる」ということです。旅行でも読書でも何でも構いません。何か胸を張って語ることができるものを作ってください。これが、授業などのネタになり、自分が予期しなかった思わぬところで生徒を引き付ける授業づくりに繋がってきます。

これから、教育実習や教員採用試験など乗り越えなければならぬたくさんのことがあります。最後まで諦めずに教員の道を目指し、夢を叶えてください。やりがいのある教員の世界で一緒にできることを楽しみにしています。



今後の予定

【1年生】

実施時期	行 事	内 容
11月25日(木)	教職課程オリエンテーション	☆ 2年次から教職課程を履修する上で、教師になるための心得 ・免許取得に至る教職課程の流れを説明します。 3限：国際福祉開発学部のみ 210教室 4限：全学部 210教室 5限：学部ごと 社会福祉学部 410教室 経済学部 420教室 福祉経営学部 910教室 心理臨床学科 210教室

【2年生・3年生】

実施時期	行 事	内 容
10月、11月	教職課程学生の面接 (社会福祉学部は3年生) (社会福祉学部以外は2年生)	☆ 学部ごとに教職課程に関係する教員が担当して行います。 「教職課程履修上の問題や悩み」「教職キャリア形成に向けて」 等が中心テーマとなります。随時掲示を見てください。
12月19日(日) 7:45 奥田 堯 21:00 奥田 蒼	教友ゼミ フィールドワーク	☆京都 龍安寺一天龍寺一仁和寺一広隆寺一嵐山 ※参加希望者は代金(6,000円)と一緒に松下先生まで

【3年生】

実施時期	行 事	内 容
12月1日(水) 12:40~ 812教室	平成23年度愛知県公立小中 学校・愛知県特別支援学校 教育実習の手続	☆ 実習校へ提出する個票への記入を行ってまいります。 ☆ 出席できない方は事前に教職課程窓口に申し出てください。

【4年生】

実施時期	行 事	内 容
①11月19日(金) 12:40~ 812教室 ②11月24日(水) 12:40~ 812教室	第2回教員免許状一括申請 オリエンテーション	☆ 教育委員会に提出する書類「免許状授与願」への記入を行ってまいります。 ☆ 出席できない方は、事前に教職課程窓口に申し出てください。
①②のいずれか都合のよいほうに出席してください。		
③11月20日(土)3・4限 ④11月27日(土)3・4限	教育実習事後指導(中高) 教育実習事後指導(特支)	☆ 実習体験報告とまとめ

